

# 2018年3月期 第3四半期 決算の概要

2018年2月1日  
日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

第3四半期においても増収・増益  
 上期に引き続きサービスが伸長したことに加え、製品販売も堅調に推移

(単位：億円)

	3Q累計 (4-12月)		前年同期比 増減	
	2018/3期	2017/3期		
売上高	1,966	1,882	+84	+4.5%
売上総利益	477	454	+22	+4.9%
販管費	▲382	▲380	▲3	▲0.7%
営業利益	94	75	+20	+26.3%
(営業利益率)	(4.8%)	(4.0%)		(+0.8pt)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	68	51	+16	+31.9%
受注高	2,062	1,913	+149	+7.8%
受注残高	2,203	2,147	+57	+2.6%

### <3Q累計決算のポイント>

- 売上高  
製品販売、アウトソーシングおよびシステムサービスが伸長し増収。
- 営業利益  
増収効果及び総利益率の改善により販管費の増加を吸収し26%増益。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益  
営業増益に伴い増益。
- 受注高・受注残高  
アウトソーシング、製品販売を中心に受注高が増加。  
受注残高は長期のアウトソーシング契約の増加により3%増加。

【ご参考】 3Q累計 (4-12月) 業績の推移 (単位：億円)



それでは、まずはじめに2018年3月期第3四半期の決算概要について、ご説明いたします。資料の1ページをご覧ください。

上期に引き続き、第3四半期も増収増益となり、第3四半期累計の業績は、売上高は前年同期比+84億円増収の1,966億円、営業利益は前年同期比+20億円増益の94億円、四半期純利益は前年同期比+16億円増益の68億円となりました。

売上高は、上期に引き続き製品販売およびアウトソーシングが伸長したほか、システムサービスも堅調に推移したことから増収となりました。利益面では、増収効果並びに総利益率の改善により販管費の増加を吸収し、営業利益は前年同期に比べ20億円増益、率にすると26%の増加となりました。また、営業増益に伴い純利益も増益となっております。

受注高については、第3四半期において、金融向け・自治体向けの長期アウトソーシング契約の受注が計上されたことなどから増加基調が継続しており、前年同期比+149億円の増加となりました。受注残高につきましても、アウトソーシングを中心に翌年以降の売上に貢献する案件が積み上がり増加しております。

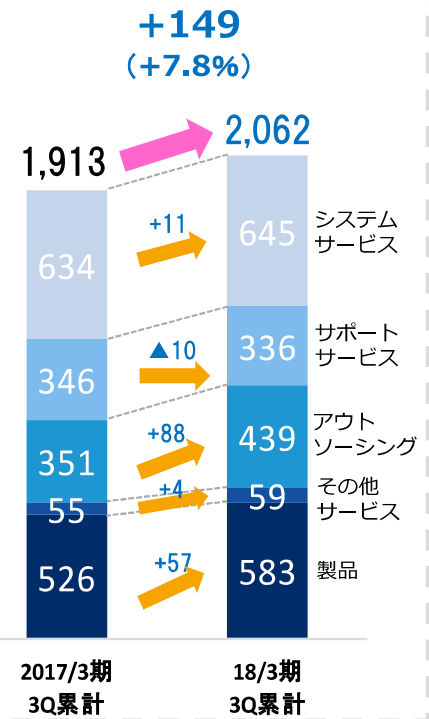
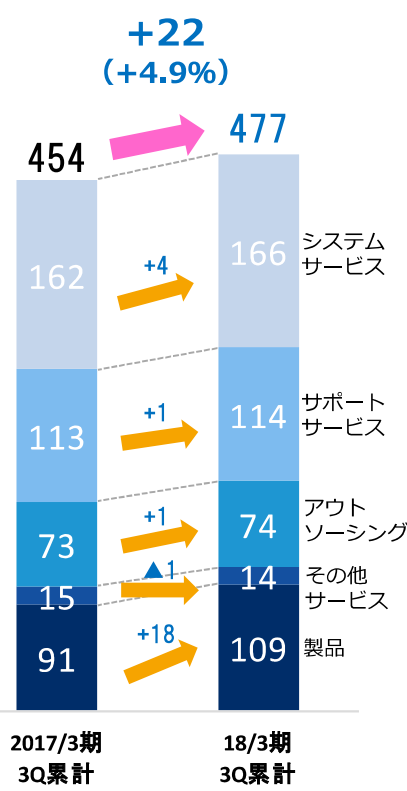
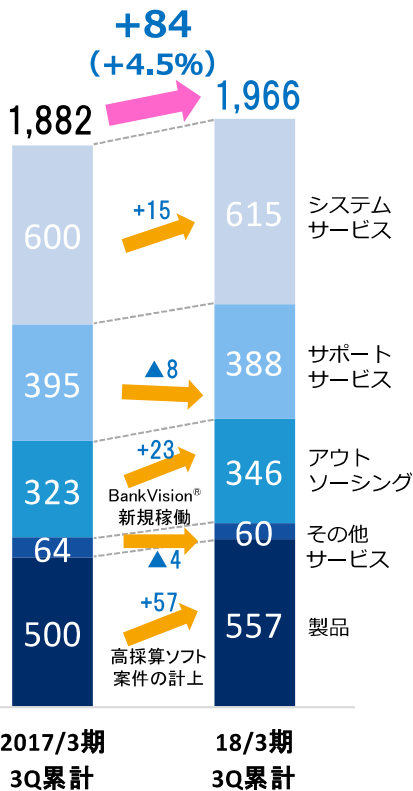
(単位：億円)

売上高

売上総利益

【ご参考】

受注高



次に、セグメント別の状況についてご説明いたします。  
資料の2ページをご覧ください。

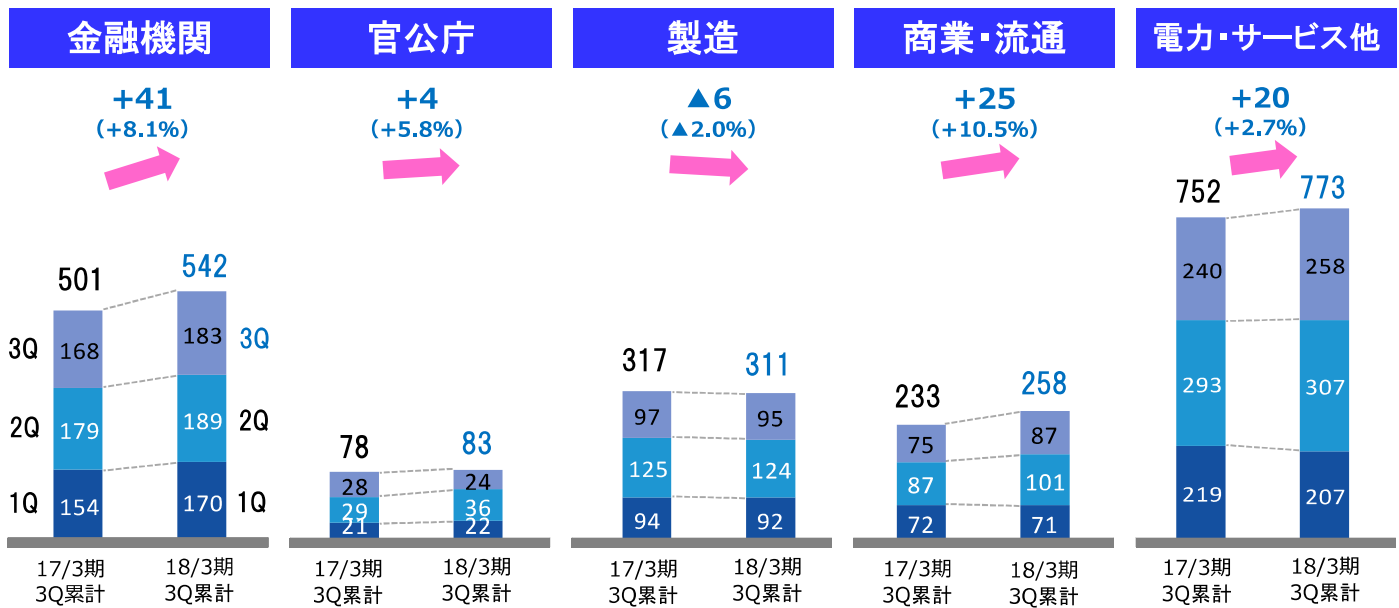
システムサービスは、金融や流通向けを中心に堅調に推移し、  
上期に引き続き増収・増益となりました。  
なお、第3四半期においても不採算案件の発生はございません。

サポートサービスは、期間満了の契約があったことなどによる影響などから  
減収となりましたが、引き続き外注費などのコスト削減に取り組むことで、  
収益性の改善に努めております。

アウトソーシングは、2017年5月からBankVision®の10行目が稼働しているほか、  
中小型案件が積み上がり、増収・増益となっております。

製品は、上期において自社製ソフトウェアが堅調だったことや、  
第3四半期に通信キャリア向け機器販売の計上があったことなどにより、  
増収・増益となっております。

(単位：億円)



マーケット概況

(金融機関)  
営業店向けフロントソリューションの引き合いは引き続き活況。FinTechを活用した新たなサービスを拡大展開中。

(官公庁)  
地方自治体などに向けた地域創生ビジネスに注力。

(製造)  
自動車中心に需要は底堅い。製造業向けIoTプラットフォームサービスのラインナップを拡充展開中。

(商業・流通)  
小売・EC事業向け導入型ソリューションの拡販に取り組む。小売向け店舗案内/在庫管理ロボット+AIの実証実験を推進中。

(電力・サービス他)  
シェアリングプラットフォームビジネスを拡大中。引き続きエネルギー管理システムを軸とした社会基盤領域ビジネスも注力。



次に、マーケット別の状況を説明いたします。資料の3ページをご覧ください。

マーケット別では、売上高は引き続き金融を中心に全般的に堅調に推移しました。

金融は、地方銀行および信用金庫における新規稼働案件が増収に貢献しているほか、地域金融機関の営業店向けフロントソリューション案件の引合いは引き続き活況を呈しております。また、WeB API公開サービスなど、FinTech関連ビジネスの拡大にも積極的に取り組んでおります。

官公庁は、引き続き地方自治体などに向けた地域創生ビジネスの創出に取り組んでまいります。

製造は、自動車向けを中心に引き続き底堅く推移しております。また、製造業向けIoTプラットフォームサービスビジネスを拡大展開しております。

商業・流通は、小売・EC事業向け導入型ソリューションの拡販に引き続き取り組むほか、小売向けにロボット・AI技術を活用したロボットの実証実験などにも取り組んでおります。

電力・サービス他では、シェアリングエコノミー関連のサービス展開を拡充するとともに、エネルギー管理システムを軸とした社会基盤領域のビジネスを強化することで、社会課題の解決に取り組んでおります。

通期の売上高、営業利益、純利益の予想は  
公表値（11月6日）から変更なし

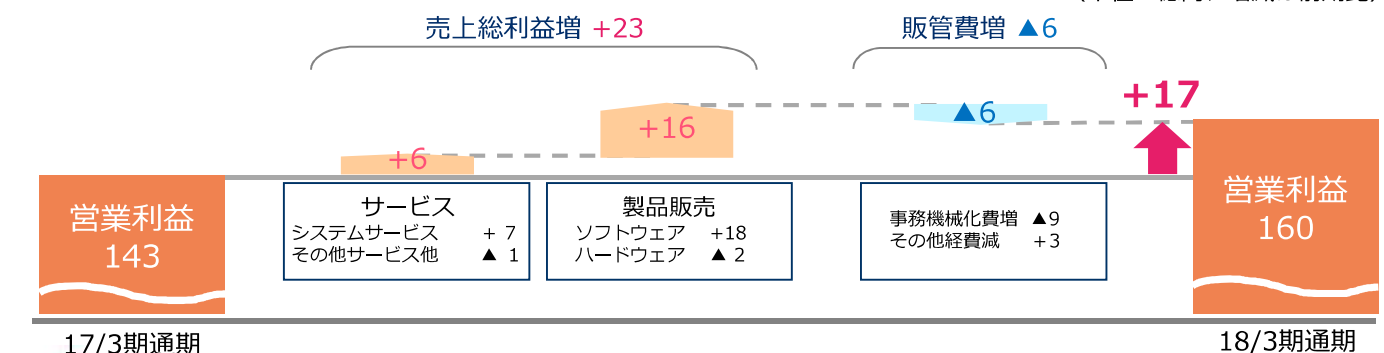
（単位：億円）

	18/3月期 3Q累計実績		18/3月期 4Q予想		18/3月期 通期予想	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前期比
売上高	1,966	+84	934	▲6	2,900	+78
営業利益	94	+20	66	▲3	160	+17
（営業利益率）	（4.8%）		（7.0%）		（5.5%）	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	68	+16	42	▲9	110	+7

\* 通期予想の内訳は補足資料をご覧ください。

## 【2018年3月期 通期予想 営業利益の増減分解】

（単位：億円、増減は前期比）



UNISYS

4

©2018 Nihon Unisys, Ltd. All rights reserved.

次に、業績予想についてご説明いたします。資料の4ページをご覧ください。

通期の売上高、営業利益、当期純利益予想については、11月6日の公表値から変更ございません。

通期の売上高は前期比+78億円増収の2,900億円、営業利益は+17億円増益の160億円、当期純利益は+7億円増益の110億円の予想としています。

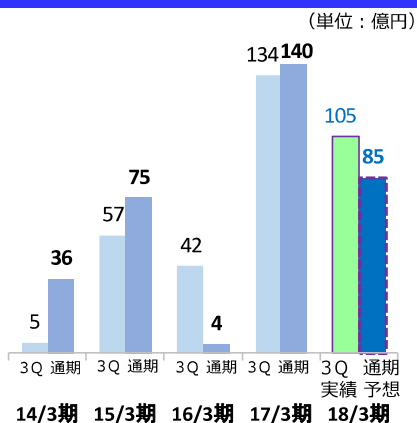
営業利益の増減分解としましては、  
売上総利益はサービス及び製品販売合わせて+23億円の増益、  
販管費は事務機械化費の増加などにより▲6億円の増加を見込んでいます。

なお、第4四半期で新規獲得を見込んでおりましたBankVision®につきましては、お客様が引き続き検討中であることから、通期の見通しには織り込んでおりません。

また、不採算リスクとして下期の予想に▲5億円のリスクを織り込んでおりましたが、第3四半期までに不採算は発生しておらず、足元でも不採算が見込まれる具体的な案件がないことから、通期見通しに不採算リスクは織り込んでおりません。

▼ 今年度3Q実績 ▼ 前年度3Q実績

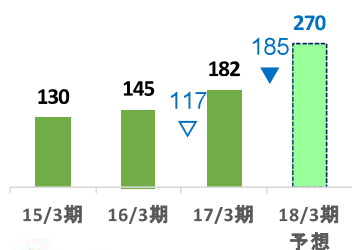
## フリー・キャッシュ・フロー



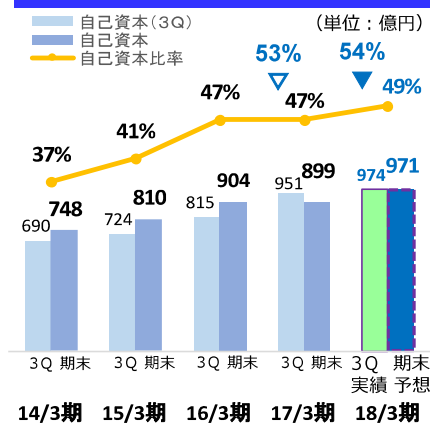
## 売上高

### デジタルイノベーション

(単位: 億円)

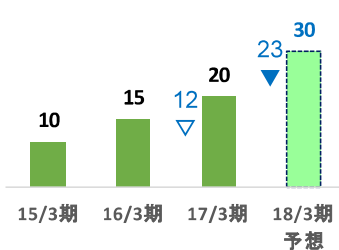


## 自己資本

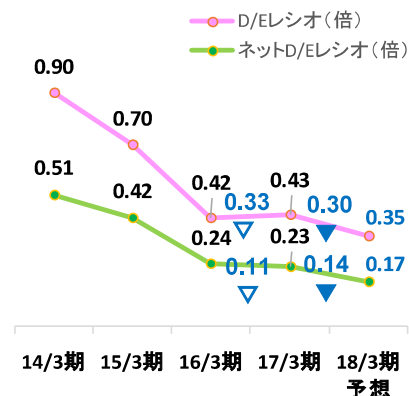


### ライフイノベーション

(単位: 億円)

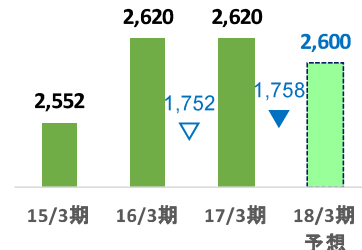


## D/Eレシオ



### ビジネスICTプラットフォーム

(単位: 億円)



続きまして、資料の5ページをご覧ください。

ご参考までに財務面では、第3四半期でのフリー・キャッシュ・フローは105億円のポジティブ、自己資本比率は54%、ネットD/Eレシオは0.14倍となっており、財務体質も引き続き着実に改善しております。

以上をもちまして、2018年3月期第3四半期 決算概要の説明を終了いたします。

# Foresight in sight

UNISYS

(注意)

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。